

京都職業能力開発短期大学校長 富田康光先生を迎え

議員懇談会を開催

議員が一堂に会し、その時々々の経済・経営の事柄について考察を深めるとともに、意見交換を行う場としての「議員懇談会」が、平成22年2月17日、舞鶴グランドホテルで開かれ、京都職業能力開発短期大学校長 富田康光 先生から「人づくり 物づくり」と題しご講演をいただきました。

懇談会には、役員・議員をはじめ36名が出席。冒頭、上西会頭が「地域経済や中小企業は、未だ非常に厳しい経営環境にあり、このような時に商工会議所に求められるのは、実体経済の基本に立ち返った、製造や販売の現場を直視した活動である。議員各位の一層のご協力・ご支援により、信頼され、な



役員議員をはじめ36名が出席

くてはならない商工会議所を目指したい」と挨拶。

講演会では、富田先生から、「①物づくり日本の一番の資源は人材（日本人）②教育は、教えることではなく、考える力を引き出すこと③成功体験し自分の時間尺度を持つこと④超一流をつくること、超一流に触れること⑤上司に育てるレベルの人間がいること⑥自社のレベルを知ること⑦技術力を発揮できるビジネスモデルを作ること⑧売れる物は必ずしも技術力が高いものではないこと⑨企業にも非連続的思考が大切」等々についてお話をいただき、締めくくり、先生が印象に残った言葉として「製品と満足を納め、代金と感謝を受け取ろう」をご紹介いただきました。

講演後、富田校長を囲んでの懇親会でも、今の学校教育やユーザーが求めるものについて話が弾みました。

当所では、地域の物づくり人材を即戦力として養成するポリテクカレッジとの連携を一層強化し、会員事業所の技術力向上を積極的に支援してまいります。



京都職業能力開発短期大学
校長 富田康光 先生

金融・理財部会講演会開催

部会長 橋本 巖
(京都北都信用金庫 特別参与・理事)

私共金融・理財部会は、1月21日に「日本経済と金融市場の見通し」というテーマで、しんきんアセットマネジメント投信株式会社チーフエコノミストの宮寄浩氏を講師に迎えて勉強会を開催致しました。

皆様御高承の通り米国のサブプライムローンに端を発し、投資ファンドの投機的取引による諸物価の高騰。更にリーマンショック以降の世界的株価の暴落と金融危機が続き、日本のグローバル企業も大幅減益と解雇。その上円高が拍車をかけ企業活動や国民消費生活は急速に冷え込んで参りました。今年に入り経済は、円高とデフレ基調となって来ております。この基調が続くと経済環境が大きく変わり、国民生活に影響が出てくる事になりましょう。その中において、日本経済又世界経済の見通しはどうかとの事で講演を拝聴させて頂きました。

中国は大規模な景気刺激策を背景に急回復したが、現在資産インフレと「人民元高」圧力に直面している。中国政府は、今年の後半にも積極的な対米投資

に踏み切ろう。中国マネ

ーをテコに各国の内需が拡大し、それが中国の輸出の増加をもたらすという好循環が期待される。

米国も着実に回復しており、今年の春にも雇用が増加に転じる見通しだ。しかし米国がかつての低金利・高成長経済に戻る保証はない。基軸通貨ドルへの不安は依然として残る。

デフレと円高に苦しむ日本は、生産拠点の海外移転を余儀なくされよう。政府の緊縮財政スタンスもあって、内需の拡大余地は乏しい。こうした中、中国を中心とする東アジア地域への直接投資は今後一段と活性化する可能性が高い。

上記の通りの概要で講演を拝聴致しましたが、こうすれば必ずこうなるという事はなく、世界の動向をみて対応を切に希望するものでございます。日本経済も大企業を中心に少しずつ年々回復基調にあると報道もされており、2、3年内には回復する事を念じてやみません。

